

梶田叡一著「教師・学校・実践研究 人間教育の基盤を創る」金子書房 2005年8月25日刊を読む(I)

## 教師に求められるもの

### 1. 学校教育の大変革の時期に

#### (1) 学校教育はいま大きな変革期

- ①「急速な少子高齢化」
- ②「国際化」
- ③「情報化」

#### (2) 子どもをめぐる当面の深刻な様相

- ①「学校嫌い・不登校」
- ②「いじめ・子どもの自殺」

#### (3) 受験学力をつけるための詰込み的な勉強の身の生活

- ①「思考力・創造性」
- ②「感性・判断力」
- ③「人間性」

\* 以上が育たない

#### (4) 物質的に豊かになって、何不自由ない生活

- ①「我慢・挫折」
- ②「豊かさ故のひ弱さ」
- ③「けじめ・協調性」

\* 以上が未熟

- ④「孤立的・独善的」

#### (5) ①「学校教育の在り方の抜本的な改革」

- ②「子どもたちの健全な成長・発達を図るための条件整備」
- ③「明るく賢く意欲的な子供を育てる学校」

#### (6) ①「教育の地方分権」

- ②「主体的な学校運営」
- ③「教職員、一人一人の自覚・力量・責任感」
- ④「校長の決断と責任の取り方」

### 2. 学校ごとの、教師各自の取組を

#### (1) 教科書は共通のものを使うが・・・

- ①「授業の導入や展開に使う教材」
- ②「まとめてみるための、学習カード、ワークシート」

- ③「学習の道筋や成果を振り返り、自己評価をする場の設定」
  - ④「教師が子どもの学習状況を把握、個別の指導助言につなげていく手だての準備」
  - ⑤「授業の在り方そのものが、教師一人一人の個性が躍動するものとなるよう、普段の創意工夫」
- (2) 子どもを、一人一人力強く育てるために
- ①「教師は、主体性を持つ」
  - ②「教師は、自分の教育に対して燃えるような思いを持つ」
  - ③「教師は、文部科学省や教育委員会から出される方針について深い理解を」同時に、
  - ④「教師は、自分の学校独自の教育、教師自身の独自の教育実践を創り出す」
- (3) ①「見える学力」・「学力保障」
- ②「見えない育ち」・「成長保障」
- (4) ①「授業中の子どもたちの学習態度」・「学習意欲」
- ②「脚下照顧」
  - ③「目の前の具体的な状況の中で、わが校は、また、私自身は、どのような教育的創意工夫をすべきか」
- (5) ①「教育者としての自覚を新たに・・・」
- ②「能動的主体的な教育実践を」
  - ③「学校を基盤としたカリキュラム開発を」
  - (SBCD・・・School Based Curriculum Development)
  - ④「モデル的先進校への道を」

## 2. 教師自身の総合的な人間力を

- (1) ①「最後は、一人一人の教師の創意工夫を生かした授業づくり」
- ②「子ども自身に対して、真に責任を持てる授業を創る」
- (2) ①「教師は授業で勝負する」
- ②「授業こそ教師が自分を賭ける場である」
  - ③「授業を見れば、その教師の教育者としての力量も見当がつく」
- (3) 教師として、心得ておくべき技術
- ①「発問・教材提示」
  - ②「自主的自発的な活動の援助」
  - ③「説明・解説のポイントの押さえ」
  - ④「学習過程の診断、フィードバック」
  - ⑤「テスト問題の作り方」
- (4) よい授業は、本来、技術や手法に還元できないものを根底に持つ
- (5) 自分なりの創意工夫を凝らした授業
- ①「専門性は不可欠」
  - ②「指導内容についてよくわかっていること」
  - ③「学習者の諸条件に合わせて、それを具体的な教育活動として展開できること」

- ④「教師の人間性」「一人の人間としての在り方」
- (5) 授業の場で、人間的な迫力、存在感が感じられる
  - ①「その内容に、教師自体がのめり込んで、熱っぽく説いていくような授業」
  - ②「子どもの方も、巻き込まれて、学習に集中」
- (6) ①「子どもに対する豊かな感性」
  - ②「子どもの心をきちんとつかめている」
  - ③「子どもの心と十分に噛み合い、子どもに深く信頼されている」
  - ④「子どもに信頼され、その心をきちんとつかんだうえで、はじめて、授業の技術や手法が効果を発揮する」
- (7) ①「授業では、教師の諸能力が、全面的に問われざるを得ない」
  - ②「人間としての生き方やあり方までが、全面的に問われざるを得ない」
  - ③「教師は、授業の場で、子どもとのかかわり方を含め、人間としてのあり方のすべてをさらけ出してしまっている」
  - ④「授業に本当に必要とされているのは、何よりもまず、教師自身の総合的な人間力」

### 3. 明るく元気で

- (1) 総合的な人間力を養うために、先生は、
  - ①「子どもと遊ぶ機会をできるだけ多くし、」
  - ②「保護者達と、忌憚なく話し合う場を設ける努力」
  - ③「教育学、心理学の本を読む」
  - ④「文学作品、ノンフィクションを含め、広範囲の本に目を通し、考えてみる習慣を持つ」
  - ⑤「趣味のサークル、地域の活動、ボランティア活動を含め、教師という社会的な活動とは無関係に取り組む諸活動に積極的になる」
- (2) 様々な機会に指導力を発揮することができるようにするために
  - ①「人間理解、自己洞察を深め」
  - ②「自己表現の力をつけ」
  - ③「多様な人たちとの協調性を養う」
- (3) 明るく元気で
  - ①「子ども、保護者、自分の出会う人の誰の心も明るくしなければならない」
  - ②「明るく元気で、活気を放散する存在」
  - ③「保護者に理解してもらい、信頼してもらい、支援し、協力してもらうためにも、何よりも元気でなくてはならない」
- (4) ①「何とか時間を作って、おいしいものを食べ、カラオケに行き、美術館を訪ね、音楽会に通うといった習慣をつけてほしい」
  - ②「自分自身が没頭できる活動や、趣味の世界を作ってほしい」
  - ③「自分自身を開放する努力を」
  - ④「自分自身のストレス管理を含め、人間の心のダイナミクスについての洞察を深める」

(5)「教師が、明るく元気でなければ、心の教育など、絵に描いた餅、心と心の触れ合いが実現しない」

#### 4. 授業のあり方の反省と、創育工夫

(1)子どもたちが、内的促しに導かれた活動が実現しているか

①「子どもが、自分の内的促しに導かれ、義理や義務感からではなく、自分なりにのめり込んで活動しているか」

②「自分のことばで、自分の理由付けで、発言したり、記述したりしようとしているか」

③「自分のこだわりを大事にして、自分の頭で考えようとしている」

(2)子どもの没頭を実現する手立ての準備があるか

(3)脇道や、落とし穴の装丁と対応する援助の手だてがあるか

P2 ~ 13

2024年7月26日(金)

林 明 夫